

# 多元的文明の調和を目指す東アジアの共通理解形成

## New Thinking for Globalism , from East Asian Viewpoints

**キーワード** グローバリズム、安全保障、日米アジア政策、科学技術、21世紀問題

### 1. 調査研究の背景と目的

科学技術の発展には現代科学技術の根底に流れている一元的価値観を根底とする西洋文明(思想)が不可欠であったが、一元的価値観に世界を無理やり統合しようとしたが故に、却って既成秩序のバランスを大きく損なう結果をもたらしている。アメリカの9.11同時多発テロの発生は、現代社会の深刻な宿癥であるテロリズムの問題とともに、人類が21世紀社会の基本に置くべき文明そのものの転機ともいえるべき大きな時代潮流の変化が兆している。米国の新保守主義を標榜する戦略家は力によるコンセンサス形成が可能であるとの視点を強調しているが、これからの世界は多元的調和を尊ぶあらたなパラダイム構築に向けて動く、すなわち各々の社会や文化の持つ多様性や独自性を保ちつつお互いの交流には共通するところのプロトコルを作り、それぞれが調和し共生して行く世界の構築を志向する方向も模索されている。後者のパラダイムを構成する具体的な理念、枠組み、方法などについては、文化的に共通の素地が豊かである東アジアの有識者と論議を行い、共通理解が可能ならば、さらに次に異なる文化土壌に立つ有識者との議論がなしうるのであろう。本研究ではこのための叩き台を作ることを目的とする。

### 2. 調査研究の内容

本調査研究は次の報告を軸に検討を進めた。

我々を取り巻く世界の現状

エネルギーの未来と食料・環境

統合(東洋・西洋)医療の世界的趨勢

新世紀への日本の選択・新産業革新の背景

日・中・韓 科学技術担当責任者の見解

グローバル社会の問題点と思想の問題

グローバル・システムの修正をいかにすべきか

まず我々を取り巻く世界の現状については学術会議が本研究に呼応して行ったシンポジウムの成果から エネルギーの未来と食料・環境について石油漬けに立脚した構造と石油そのものが30年後には厳しい状況になることに関する認識を求めた。統合(東洋・西洋)医療の世界的趨勢として、アジアなどの伝統的な共生型の社会システムが積極的に取り入れられることによって、西洋医学の溢路を超え統合医療として大きな成果をもたらす現実と可能性について触れた。新世紀への日本の選択・新産業革新の背景としては分子レベル以下に到達したプロセス研究開発などを例にとりて産業革新の歴

史的分析と将来の方向について述べた。

一方、中国では科学院を中心とするこれからの科学技術振興の重点方向について概括し固有の知的リソースの活用について触れ、韓国では先端技術における競争的な研究環境整備と重点課題についてその問題を指摘された。日本では政府が進める重点8分野について概括紹介があった。このような背景をもとに、グローバルな社会の問題点として東アジアの思想の内実とその展開の意義について日本の近世社会思想の影響と展開についての紹介があり、韓国の近世思想とその純化されたものが排他的な思想として遺存し、北朝鮮のメンタリティーにも伺えること、分子生物学の観点から *Homo symbiosus* を和而不同に展開した視点の説明があった。これについては科学を管理できる上位概念としての社会規範の重要性が日本研究者から補足された。グローバル・システムの修正をいかにすべきかに関しては国際政治学を中心に企業経済史からの展望、一極支配と大国間の多極化の衝突あるいは協調などの問題について基礎的な検討を踏まえた中国からの意見があった。

このような共同討論からは現実的な国際政治環境を視野にいれつつもより高い見地から、21世紀の方向を模索する現状が浮き彫りにされたといえる。

### 3. 共同研究参加者

中国	蒋 立峰	中国社会科学院日本研究所所長
中国	韓 鐵映	中国社会科学院日本研究所 研究員
中国	徐 国雄	中国現代国際関係研究所 所長助理
中国	楊 明傑	中国現代国際関係研究所 研究員
中国	楊 柏齡	中国科学院 副院長
中国	邱 華盛	中国科学院国際交流処処長
中国	沈 華	政策研究員大学 客員教授(原 中国科学院)[在日本]
韓国	千 性淳	韓国科学技術諮問委員会 委員長
韓国	崔 在天	ソウル大学教授
韓国	金 容雲	前漢陽大学教授
韓国	李 勉雨	世宗研究所副所長
韓国	崔 光鶴	在日韓国大使館 科学官
日本	細田博之	日本科学技術政策担当大臣
日本	小野晋也	衆議院議員
日本	堺屋太一	元経済企画庁長官
日本	石井吉徳	富山国際大学教授・東大名誉教授
日本	渥美和彦	日本学術会議会員・東大名誉教授

日本	内田盛也	科学技術連合フォーラム世話人代表・(社)日本工学会顧問
日本	吉田和男	京都大学教授
日本	山本吉宣	東京大学教授
日本	納屋政嗣	一橋大学教授
日本	西谷 修	東京外国語大学教授
日本	山内康英	国際大学教授
日本	須藤和夫	東京大学教授
日本	甲斐信好	拓殖大学助教授
日本	馬場錬成	前読売新聞論説委員
日本	林雄二郎	(財)未来工学研究所副理事長
日本	長谷川洋作	(財)未来工学研究所所長
日本	稗田浩雄	(財)未来工学研究所主席研究員